

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2011年第3週  
(1月17日～1月23日)

- \* 2011年1月26日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は月報告(2010年12月)の疾患及び感染症豆知識  
「ハンタウイルス肺症候群(Hantavirus Pulmonary syndrome, HPS)」も掲載しています。

平成23(2011)年1月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

## 全数把握対象疾患 報告数 2011年3週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		52週	1週	2週	3週		3週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	48	78	57	58	193	315	1,012
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢	1		2	1	3	1	6
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1		2	3	12	46
	腸チフス							
	パラチフス		1	1		2		2
四類	E型肝炎						1	1
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎						6	10
	エキノコックス症				1	1		2
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症		1			1		1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病	1	1	1	1	3	2	24
	デング熱	2	2		1	3	2	6
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							1
	マラリア		1			1		1
野兎病								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症		1	1		2	9	30	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	1週	2週	3週	年累計	3週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	7	2	3	5	10	13	37
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)		1			1	5	12
	急性脳炎 *2			2		2	6	21
	クリプトスポリジウム症							1
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	1		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1	3	3	11
	後天性免疫不全症候群	10	9	7	8	24	17	58
	ジアルジア症							3
	髄膜炎菌性髄膜炎							
	先天性風しん症候群							
	梅毒	1	1	6	5	12	9	28
	破傷風							2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							2
	風しん						3	6
麻しん		2		5	7	8	18	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—				
2011/1/26集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

\*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 58件** 肺結核31件、その他の結核27件で、推定感染地は国内52件、国内及び国外(中国)1件、国外5件(フィリピン2件、中国2件、ベトナム1件)、年齢は5歳未満1件、10歳代1件、20歳代6件、30歳代6件、40歳代7件、50歳代9件、60歳代8件、70歳代6件、80歳代12件、90歳以上2件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 1件** 菌種はソネ。推定感染地はインドで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。  
**腸管出血性大腸菌感染症 2件** どちらも無症状病原体保有者。血清型・毒素型はO157(VT1VT2)1件、O6(VT2)1件で、年齢は5歳未満1件、30歳代1件であった。

#### 〈四類感染症〉

**エキノコックス症 1件** 単包条虫。推定感染地はアフガニスタン及びパキスタンで、感染経路はその他(不明)であった。  
**つつが虫病 1件** 推定感染地は島しょ地域であった。  
**デング熱 1件** 血清型は1型で、推定感染地はインドネシアである。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 5件** 腸管アメーバ症4件、腸管外アメーバ症1件。推定感染地は全て国内で、推定感染経路は性的接触(異性間)2件、その他3件であった。  
**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 古典型CJDで、年齢は70歳代であった。  
**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件** A群で、血液から菌が分離・同定された。推定感染経路はその他(不明)である。  
**後天性免疫不全症候群 8件** 無症候キャリア6件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は20歳代2件、30歳代1件、40歳代2件、60歳代1件、AIDS患者の年齢は20歳代1件、50歳代1件である。推定感染地は国内7件、不明1件、推定感染経路は性的接触7件(同性間5件、両性間2件)、不明1件であった。  
**梅毒 5件** 早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症候1件。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間4件、性別不明1件)であった。  
**麻しん 5件** 麻しん(検査診断例)4件、麻しん(臨床診断例)1件。推定感染地は国内3件、イギリス1件、シンガポール及びスリランカ1件である。年齢は5歳未満2件、20歳代2件、30歳代1件で、麻しん含有ワクチン接種歴は無し1件、1回2件、不明2件であった。

※第2週該当分として、五類 後天性免疫不全症候群 1件(無症候キャリア)の追加報告があった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2011年3週

定点種別	対象疾患	東京都(保健所受理週)					報告医療機関数	定点医療機関数
		52週	1週	2週	3週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	98	123	115	116	0.44	262	264 (150)*
	咽頭結膜熱	65	127	112	91	0.35		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	186	340	409	622	2.37		
	感染性胃腸炎	1,124	1,946	2,592	2,799	10.68		
	水痘	160	594	422	365	1.39		
	手足口病	12	17	19	13	0.05		
	伝染性紅斑	55	116	183	195	0.74		
	突発性発しん	37	113	137	171	0.65		
	百日咳	6	17	13	14	0.05		
	ヘルパンギーナ	3	4	7	4	0.02		
	流行性耳下腺炎	36	140	117	91	0.35		
	不明発しん症(注1)	3	15	29	23	0.09		
	MCLS(川崎病)(注1)	2	4	5	4	0.02		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	576	1,770	4,141	10,209	24.54	416	419 (290)*
眼科	急性出血性結膜炎	0	1	1	0	0.00	37	39
	流行性角結膜炎	23	19	14	13	0.35		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	0	0	2	1	0.04	24	25
	無菌性髄膜炎	0	0	1	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	7	11	5	11	0.46		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	1	1	2	0.08		
2011/1/26集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

\* ( )内は2010年52週までの定点医療機関数

### (定点把握対象疾患のコメント)

- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は微減した。しかし感染症法施行(1999年)以来、同時期としては最も多い。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は微増した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は増加した。現在は注意報が出ている状況であり、警戒が必要である。

### (定点医療機関からのコメント)

大田区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:ロタが出始めました。
- ・不明発しん症:ジベルばら色糞症も含まれています。

世田谷保健所管内定点医療機関

- ・「結膜充血」が見られないアデノウイルス感染症(38℃超の発熱)が1例(報告対象外)。
- ・感染性胃腸炎:患者数が減りました。

荒川区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:ロタウイルス陽性1名
- ・感染性胃腸炎:便培養の結果、病原性大腸菌O166(1例)、O157(1例)、O25(2例)、O6(1例)、O1(1例)が検出された。

板橋区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:カンピロバクター(2例)、病原性大腸菌O74(2例)、O26(1例)、O1(1例)
- ・流行性耳下腺炎:家族発症

※ インフルエンザの迅速診断結果及びコメントは13頁にまとめて記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2011年3週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	9	1	1	29	15		1	3		
～11か月	26	2	4	139	31	2	1	70	1	
1歳	53	20	11	328	56	4	11	78		3
2歳	13	21	29	234	71	3	12	11		
3歳	7	18	42	222	51	1	19	2		1
4歳	3	13	71	225	51	2	31	2		
5歳	1	4	97	179	35	1	32	1		
6歳	3	3	89	164	20		37	1		
7歳		2	73	136	17		14	3		
8歳			43	118	4		17			
9歳		2	35	123	5		10			
10～14歳	1	2	79	362	8		10		2	
15～19歳			10	111					1	
20～29歳		3	38	429	1				10	
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	116	91	622	2799	365	13	195	171	14	4
先週比	1	-21	213	207	-57	-6	12	34	1	-3

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		2		31		
～11か月		4		118		
1歳	2	10	1	312		
2歳	8	2	2	298		
3歳	9	2	1	409		
4歳	10	1		638		
5歳	7			702		
6歳	10	1		688		
7歳	10			542		
8歳	4			542		
9歳	4			465		
10～14歳	20			1594		
15～19歳	2			613		
20～29歳	5	1		964		1
30～39歳				1009		6
40～49歳				752		5
50～59歳				341		1
60～69歳				121		
70～79歳				58		
80歳以上				12		
合計	91	23	4	10209		13
先週比	-26	-6	-1	6068	-1	-1

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2011年3週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		1
3歳		1
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		2
30～39歳		1
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	5

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2011年3週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	1			21	2		2			
中央区				6	2			1		
みなと	6	4	13	71	12		5	3	3	
新宿区	1	7	19	29	3	1	3	6		
文京	11	2	2	31	1			2		
台東		4	8	54	4		1	3		
墨田区	3	3	13	36	6		2	2		
江東区	7	3	27	198	8	1	11	9		
品川区			20	95	8		2	1		
目黒区			2	35	1		2			
大田区	8	8	45	189	19		12	8	1	
世田谷	6	2	18	203	10	1	18	4		1
渋谷区	1		3	46	5	1	1	2		
中野区		1	3	74	4	1	2	2		1
杉並	4	1	11	98	12	1	12	6		
池袋			2	20	3		2	4	1	
北区			20	35	2		2	5		
荒川区	7	4	21	85	10		5	3		
板橋区	1	1	7	68	10		6	4		
練馬区	2	1	29	132	22		14	9		
足立	6	11	35	180	23		6	9	4	
葛飾区		1	15	72	10	1	14	2		
江戸川		7	60	126	10	1	13	8		1
八王子市	9	5	57	172	22	1	12	14	2	
西多摩	3		14	61	10	4	2	8		
南多摩	9	8	18	88	14		3	8		
町田	1	1	30	111	31			7		1
多摩立川	5	1	28	114	16		9	9		
多摩府中	8	4	38	184	30		17	15	3	
多摩小平	17	12	64	165	34		17	17		
島しょ					21					

東京都合計	116	91	622	2,799	365	13	195	171	14	4
-------	-----	----	-----	-------	-----	----	-----	-----	----	---

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2011年3週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				39		
中央区	1			60		2
みなと	7			211		
新宿区		1	1	172		1
文京	2			129		
台東	1			91		
墨田区				114		
江東区	2	1		388		2
品川区				139		
目黒区				75		
大田区	1	3		503		
世田谷	8	3		583		
渋谷区	1			109		
中野区	1	1		222		1
杉並	1			372		
池袋				198		
北区	1			186		1
荒川区	2			197		1
板橋区	6	2		213		
練馬区	5	1		608		2
足立	2	2	1	483		1
葛飾区	3			359		
江戸川	3	1		479		
八王子市	7	1		556		
西多摩			1	422		
南多摩	2	1	1	379		
町田	2	2		418		
多摩立川	10	2		647		
多摩府中	4	2		1001		
多摩小平	15			764		2
島しょ	4			92		

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		2
文京		1
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		1
練馬区		
足立		
葛飾区		1
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	91	23	4	10,209	-	13
-------	----	----	---	--------	---	----

東京都合計	0	5
-------	---	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2011年3週

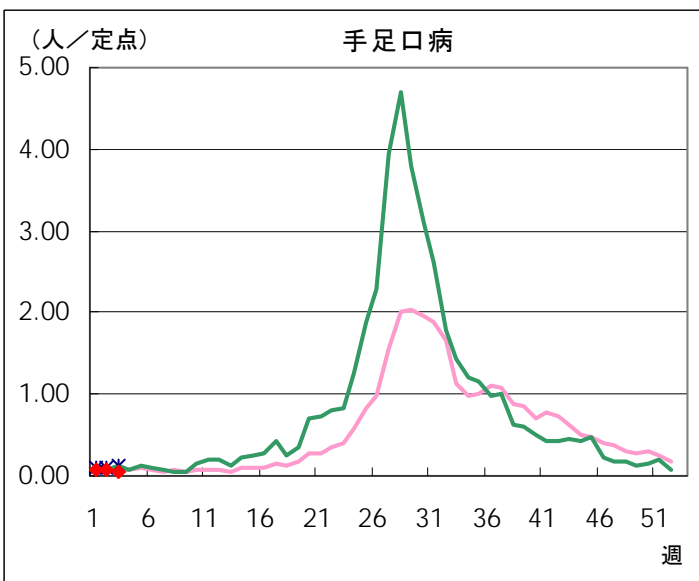
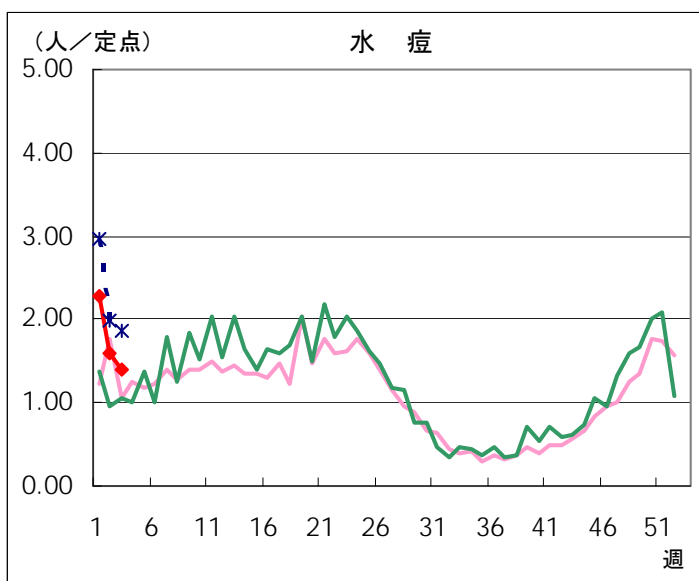
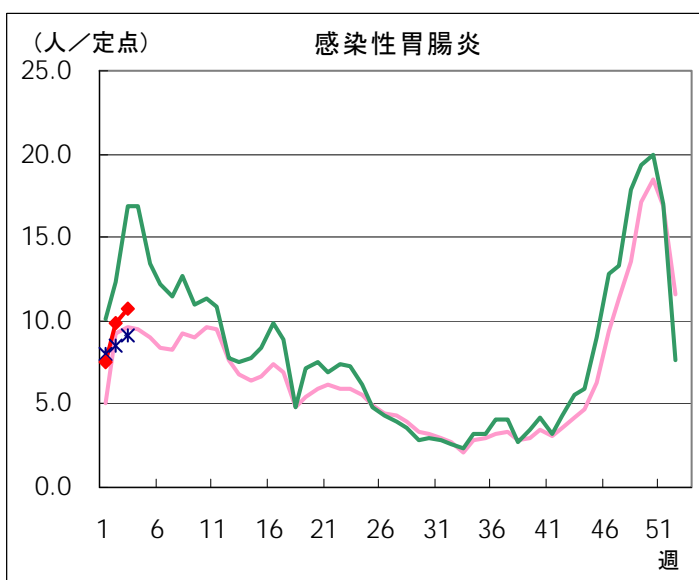
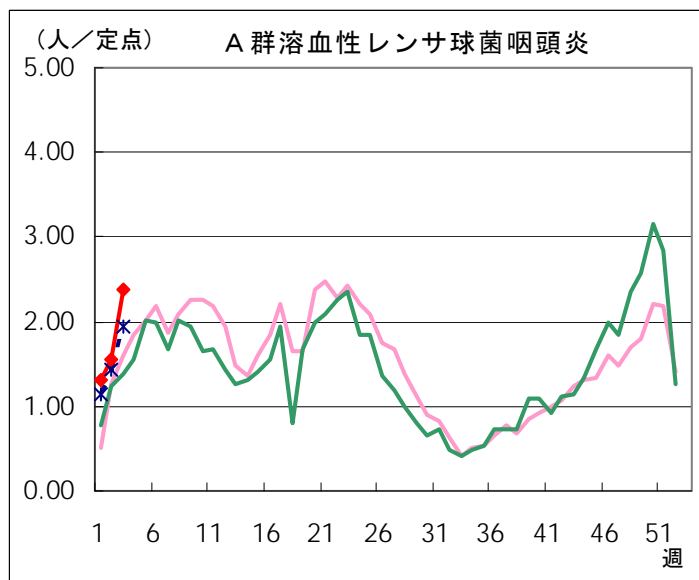
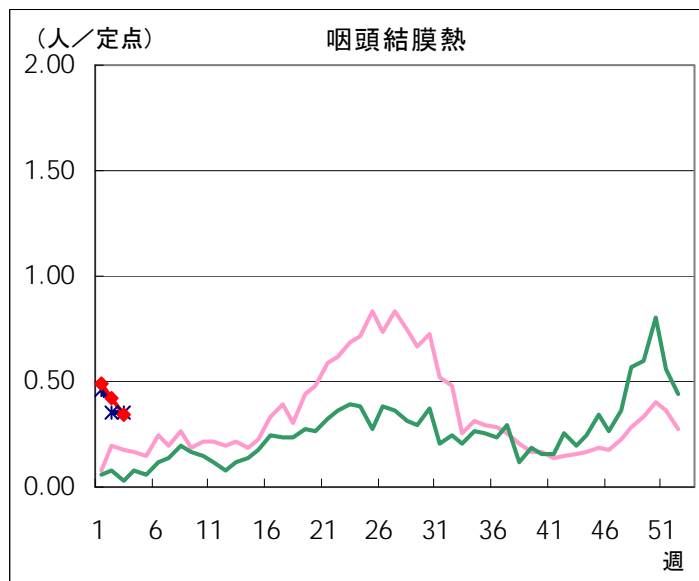
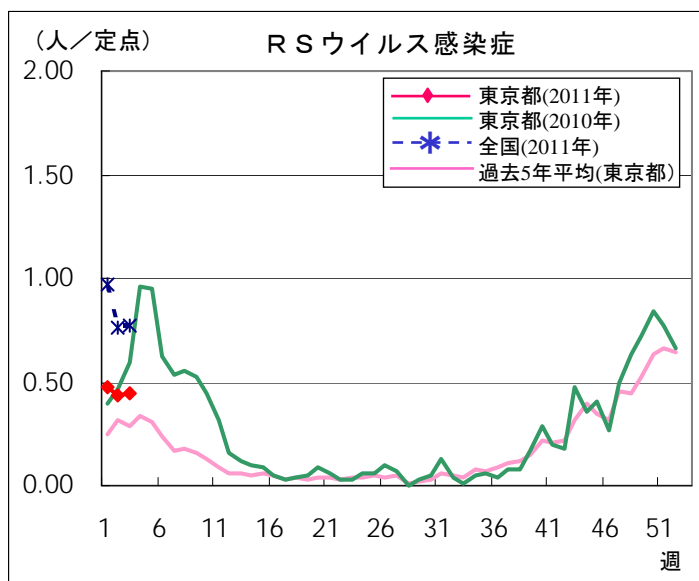
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	0.33			7.00	0.67		0.67			
中央区				2.00	0.67			0.33		
みなと	1.00	0.67	2.17	11.83	2.00		0.83	0.50	0.50	
新宿区	0.13	0.88	2.38	3.63	0.38	0.13	0.38	0.75		
文京	2.75	0.50	0.50	7.75	0.25			0.50		
台東		1.00	2.00	13.50	1.00		0.25	0.75		
墨田区	0.60	0.60	2.60	7.20	1.20		0.40	0.40		
江東区	0.78	0.33	3.00	22.00	0.89	0.11	1.22	1.00		
品川区			2.50	11.88	1.00		0.25	0.13		
目黒区			0.40	7.00	0.20		0.40			
大田区	0.62	0.62	3.46	14.54	1.46		0.92	0.62	0.08	
世田谷	0.38	0.13	1.13	12.69	0.63	0.06	1.13	0.25		0.06
渋谷区	0.25		0.75	11.50	1.25	0.25	0.25	0.50		
中野区		0.14	0.43	10.57	0.57	0.14	0.29	0.29		0.14
杉並	0.40	0.10	1.10	9.80	1.20	0.10	1.20	0.60		
池袋			0.40	4.00	0.60		0.40	0.80	0.20	
北区			2.86	5.00	0.29		0.29	0.71		
荒川区	1.75	1.00	5.25	21.25	2.50		1.25	0.75		
板橋区	0.10	0.10	0.70	6.80	1.00		0.60	0.40		
練馬区	0.15	0.08	2.23	10.15	1.69		1.08	0.69		
足立	0.46	0.85	2.69	13.85	1.77		0.46	0.69	0.31	
葛飾区		0.13	1.88	9.00	1.25	0.13	1.75	0.25		
江戸川		0.64	5.45	11.45	0.91	0.09	1.18	0.73		0.09
八王子市	0.82	0.45	5.18	15.64	2.00	0.09	1.09	1.27	0.18	
西多摩	0.38		1.75	7.63	1.25	0.50	0.25	1.00		
南多摩	1.00	0.89	2.00	9.78	1.56		0.33	0.89		
町田	0.13	0.13	3.75	13.88	3.88			0.88		0.13
多摩立川	0.36	0.07	2.00	8.14	1.14		0.64	0.64		
多摩府中	0.40	0.20	1.90	9.20	1.50		0.85	0.75	0.15	
多摩小平	1.13	0.80	4.27	11.00	2.27		1.13	1.13		
島しょ					21.00					
東京都	0.44	0.35	2.37	10.68	1.39	0.05	0.74	0.65	0.05	0.02

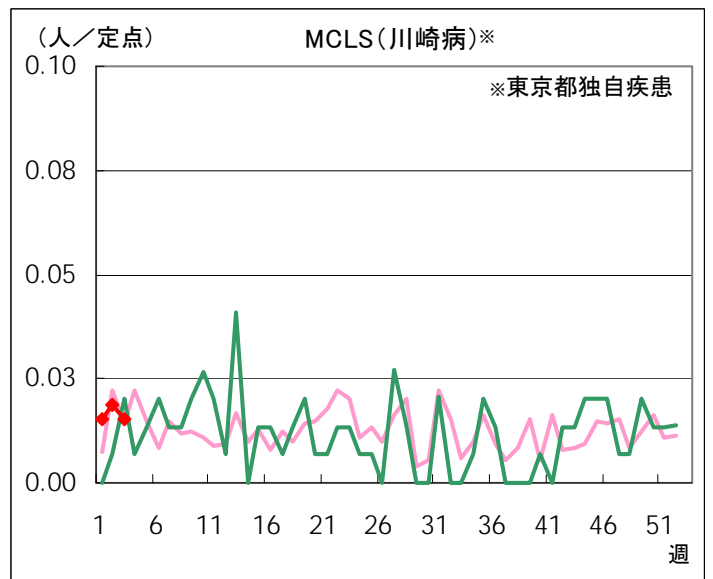
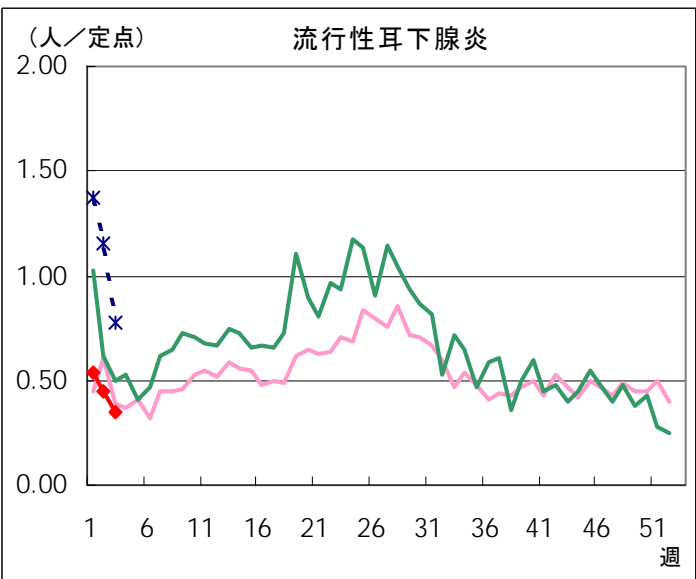
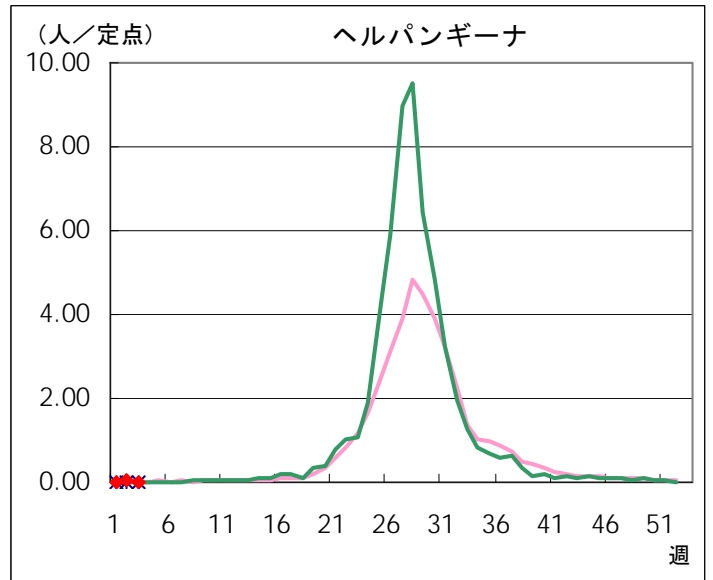
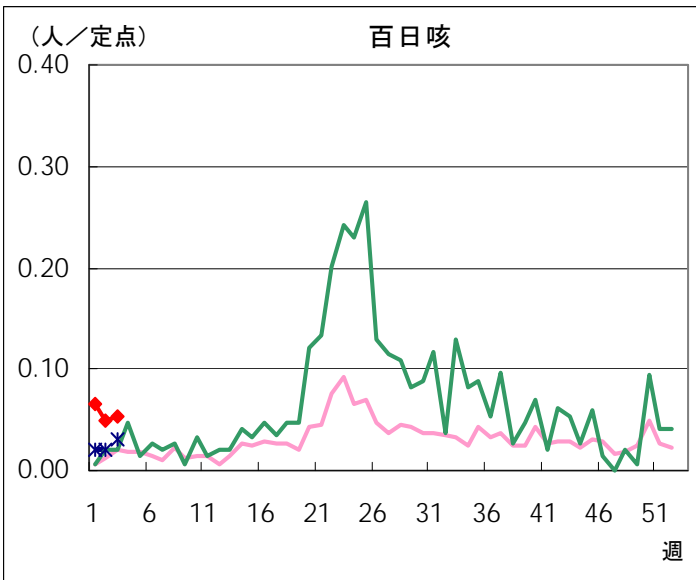
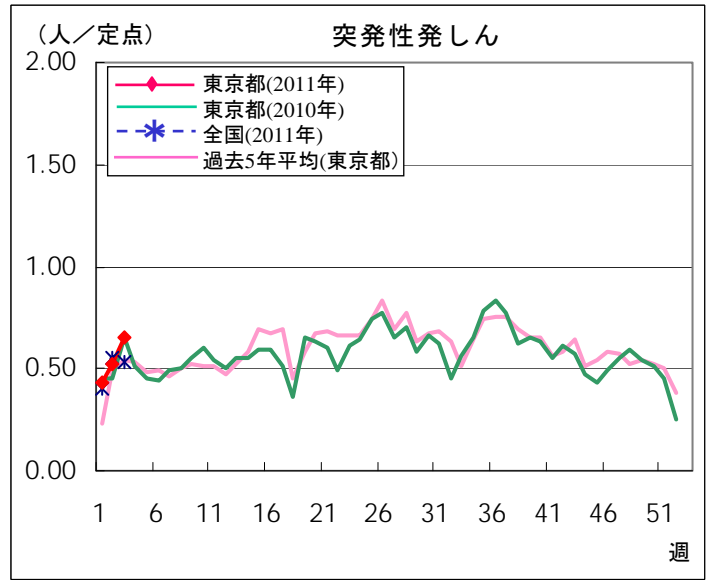
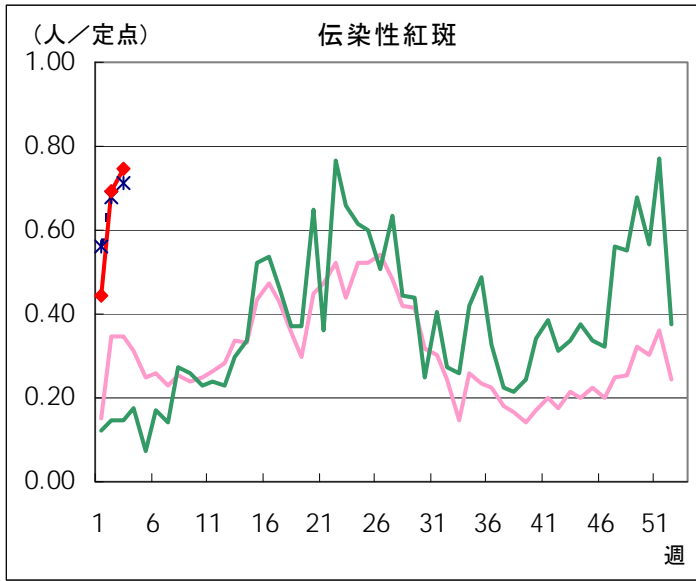


定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				9.75		
中央区	0.33			12.00		2.00
みなと	1.17			23.44		
新宿区		0.13	0.13	14.33		1.00
文京	0.50			18.43		
台東	0.25			13.00		
墨田区				14.25		
江東区	0.22	0.11		27.71		2.00
品川区				11.58		
目黒区				9.38		
大田区	0.08	0.23		23.95		
世田谷	0.50	0.19		23.32		
渋谷区	0.25			15.57		
中野区	0.14	0.14		20.18		1.00
杉並	0.10			23.25		
池袋				24.75		
北区	0.14			16.91		1.00
荒川区	0.50			28.14		1.00
板橋区	0.60	0.20		13.31		
練馬区	0.38	0.08		28.95		1.00
足立	0.15	0.15	0.08	24.15		0.50
葛飾区	0.38			27.62		
江戸川	0.27	0.09		28.18		
八王子市	0.64	0.09		30.89		
西多摩			0.13	30.14		
南多摩	0.22	0.11	0.11	27.07		
町田	0.25	0.25		32.15		
多摩立川	0.71	0.14		30.81		
多摩府中	0.20	0.10		31.28		
多摩小平	1.00			33.22		1.00
島しょ	4.00			46.00		
東京都	0.35	0.09	0.02	24.54	-	0.35

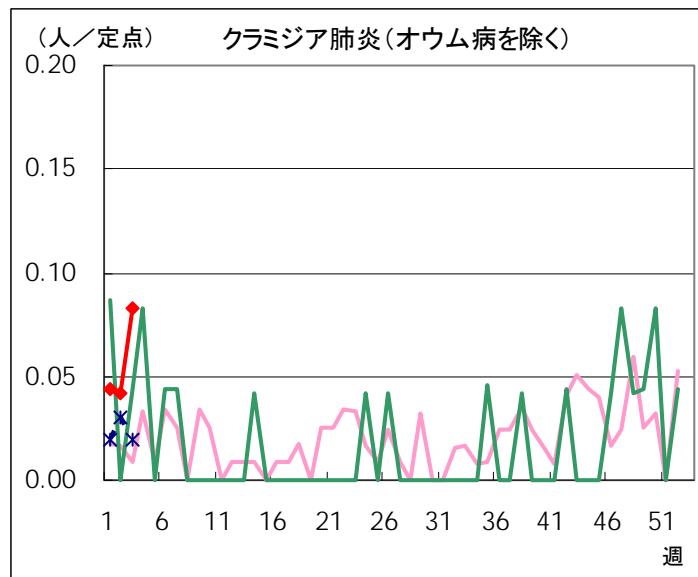
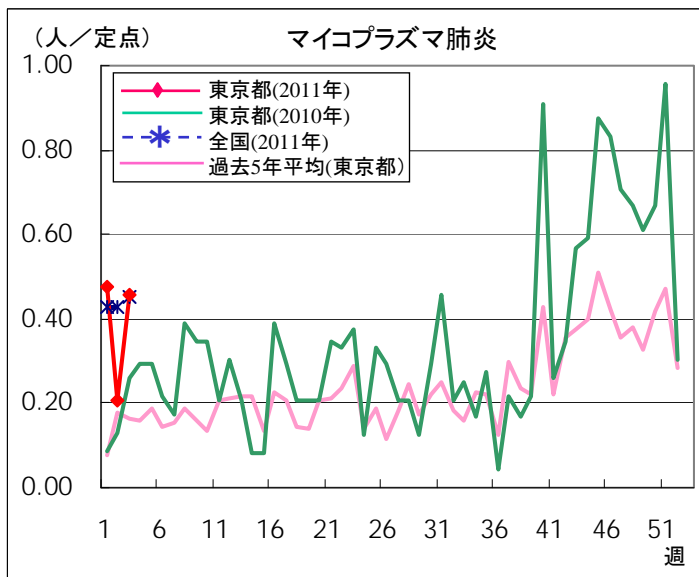
# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2011年3週現在

## ◆ 小児科定点

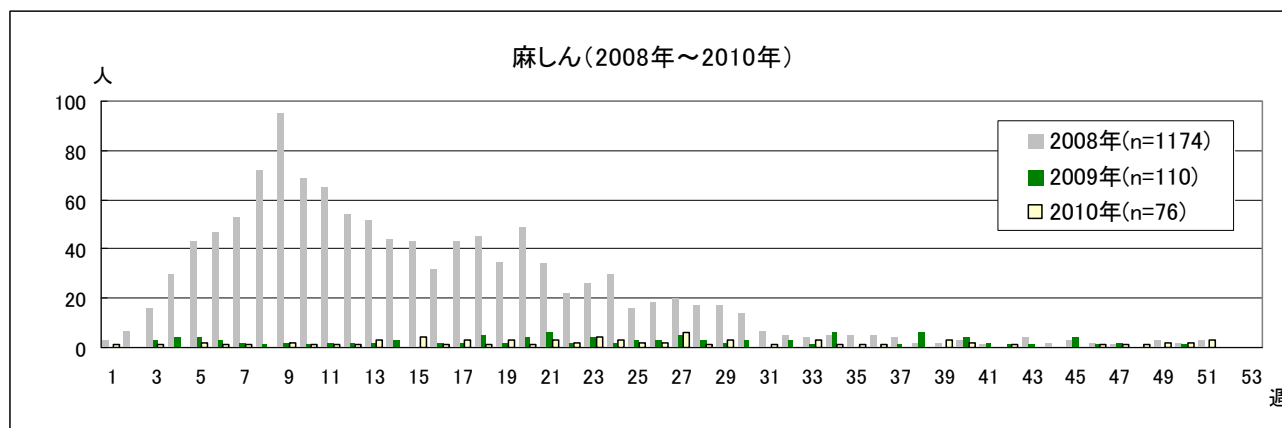
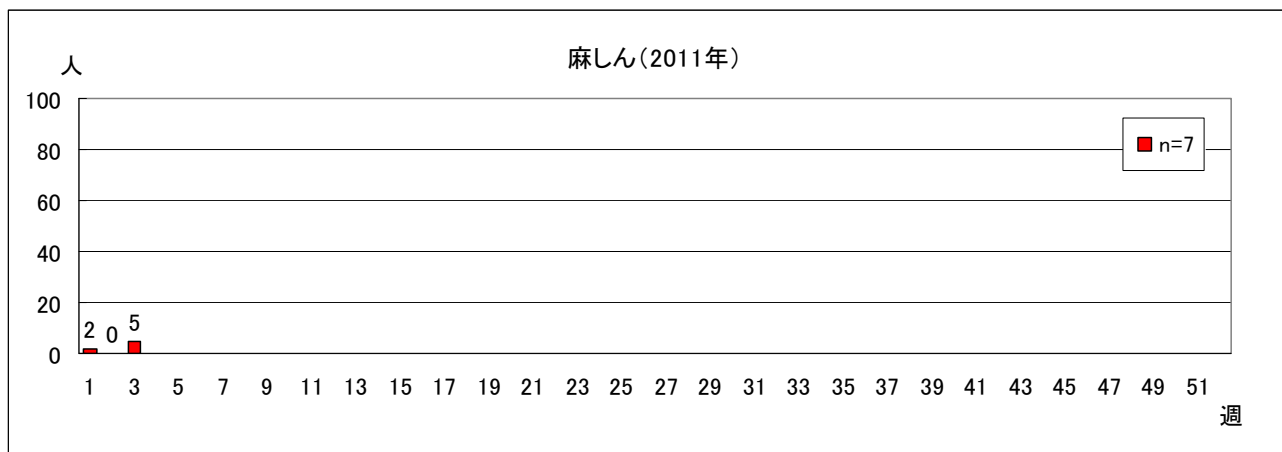








全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2011年3週現在



## 定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		医療機関数	備 考
	A	B		
台東	74	6	5	
江東区	259	5	11	型不明 3名
品川区	25	3	5	型不明 26名
目黒区	64	0	6	型不明 6名
大田区	169	3	7	
世田谷	53	2	6	型不明 20名
渋谷区	31	1	3	
中野区	205	5	11	A・B同時陽性 2名、臨床診断 5名、型不明 5名
池袋	73	1	3	
北区	54	1	6	型不明 69名
荒川区	76	1	2	
板橋区	24		2	
足立	149	3	5	
西多摩	198	3	6	
南多摩	285	2	9	
町田	108	2	4	
多摩立川	191	11	7	型不明 72名
多摩府中	103	5	5	
多摩小平	294	9	9	型不明 20名
島しょ	2		1	

- コメント
- ・ 家族性発症が多い。
  - ・ 成人が多い。
  - ・ 1/21より、インフルエンザ急増。9歳児2名ともにB型。
  - ・ 新型と思われる呼吸器症状の強いインフルエンザが増加。
  - ・ インフルエンザA型急増。37℃前後の微熱しかいない人もいるので、実際はもっと多くの感染者がいることは確実。(強い希望がなければ、発熱患者37.5℃以上しか、検査は実施していない。)
  - ・ 今週に入って感染性胃腸炎からインフルエンザにシフトしてきました。病原体定点の結果は、今月に入って新型がほとんどです。
  - ・ 週末にかけてインフルエンザが増加してきました。
  - ・ 10才以上～成人の患者が多い。

## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
1/11	手足口病	4M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
1/11	不明発しん症	1	咽頭拭い液	麻疹ウイルス*、エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
1/14	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 7型	
1/12	嘔吐下痢症	1	糞便	ノロウイルス(GⅡ)	
1/11	高熱	1	鼻汁	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
1/8	急性胃腸炎	1	糞便	アデノウイルス、エンテロウイルス ノロウイルス(GⅡ)	
1/8	インフルエンザ	3	鼻汁	アデノウイルス	
1/14	咽頭結膜熱	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	
1/11	頸部リンパ節炎	5	咽頭拭い液	ライノウイルス、EBウイルス	
1/11	流行性耳下腺炎	6	咽頭拭い液	EBウイルス	
1/7	百日咳	7	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
1/7	百日咳	7	咽頭拭い液	アデノウイルス	
1/14	急性咽頭炎	9	咽頭拭い液	アデノウイルス	
1/5	インフルエンザ・心筋症	10	咽頭拭い液	新型インフルエンザウイルス ※1	
1/14	流行性耳下腺炎	10	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
1/6	インフルエンザ	16	咽頭拭い液	ライノウイルス 新型インフルエンザウイルス ※1	
1/7	気管支肺炎	23	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
1/11	流行性角結膜炎	37	結膜拭い液	アデノウイルス	
1/5	百日咳	記載なし	後鼻腔拭い液	肺炎球菌	分離同定
1/13	喘息性気管支炎・突発性発しん	記載なし	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	遺伝子

\* : MRワクチン接種後

※1 : 次頁「遺伝子検査法によるインフルエンザの亜型」の集計数に含まれる

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/16 ※1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	67	菌株 (血液由来)	<i>Streptococcus pyogenes</i> (T-1型)	同定 菌型

※1：51週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型*)
2週	0	7	1	34
2010-2011年 シーズン累計**	0	71	6	88

\*：新型インフルエンザ (pandemic H1N1 2009)

\*\*：2010-2011シーズンの開始は第36週 (2010年9月6日～9月12日)



病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年 - 2011年							
		47週	48週	49週	50週	51週	52週	1週	2週
ウイルス	アデノウイルス	9	12	12	11	2		2	6
	ライノウイルス	5	4	8	7	5	1	2	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	2	10	1	2	2	1	1	5
	単純ヘルペスウイルス							1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7		3	1		1	1	2	4
	EBウイルス		2		1			1	2
	サイトメガロウイルス								
	ムンプスウイルス			2		1	1		1
	麻疹ウイルス								1
	風しんウイルス								
	パルボウイルスB19		1		3	1			
	RSウイルス	4	8	8	15	5		10	
	ノロウイルス	4	16	6	6	2			2
	ロタウイルス								
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	3	5	3	4	11	4	11	7	
インフルエンザウイルスB					1	1		1	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	1	1	8	7	7	7	17	34	
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス	1								
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌	1	4						
	百日咳	4		1	2				
	マイコプラズマ		1		1				1
	その他の細菌	3		2	2				1
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年47週～2011年2週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	156	34	119	42	13	3		6		6	3	16	8	2			88	
ウイルス	アデノウイルス	3	14	13	4		1	4				8					7	
	ライノウイルス	7	4	10	6					2		1					4	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	3		4	5	1				4		3						4
	単純ヘルペスウイルス																	1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7						1					6						5
	EBウイルス		2							1			2					1
	サイトメガロウイルス																	
	ムンプスウイルス												5					
	麻疹ウイルス											1						
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											2	2					1
	RSウイルス		5	42			1											2
	ノロウイルス			1	33													2
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	47	1																
インフルエンザウイルスB	3																	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	81		1															
デングウイルス(抗体を含む)																		
その他のウイルス																	1	
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		5															
	百日咳			7														
	マイコプラズマ			2													1	
	その他の細菌			7													1	
その他の病原体																		

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2010年12月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	108	2.00	54	55
		女	80	1.48		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	56	1.04		
		女	35	0.65		
	尖圭コンジローマ	男	39	0.72		
		女	20	0.37		
	淋菌感染症	男	78	1.44		
		女	11	0.20		
	膺トリコモナス症*	男	0	0.00		
		女	10	0.19		
梅毒様疾患	男	8	0.15			
	女	1	0.02			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	61	2.54	24	25
		女	35	1.46		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	44	1.83		
		女	26	1.08		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	2	0.08		
		女	1	0.04		
2011/1/26						

\* 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2010年12月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	3			1		
20～24歳	7	3	8	10		
25～29歳	17	3	8	21		1
30～34歳	24	11	4	17		1
35～39歳	25	12	5	13		2
40～44歳	11	7	4	9		2
45～49歳	9	6	5	6		
50～54歳	3	7	1	1		2
55～59歳	5	3	2			
60～64歳	2	2	1			
65～69歳	1	1	1			
70歳～	1	1				
合計	108	56	39	78		8
先月数	109	59	49	76		6
増減数	-1	-3	-10	2		2

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	10	1	2	2		
20～24歳	21	10	2	3	1	
25～29歳	20	5	5	5	4	
30～34歳	12	4	5		1	
35～39歳	11	3	3		2	
40～44歳	3	3	1		1	1
45～49歳	3	3	1			
50～54歳		1		1		
55～59歳			1		1	
60～64歳						
65～69歳		1				
70歳～		4				
合計	80	35	20	11	10	1
先月数	94	37	14	9	15	
増減数	-14	-2	6	2	-5	1

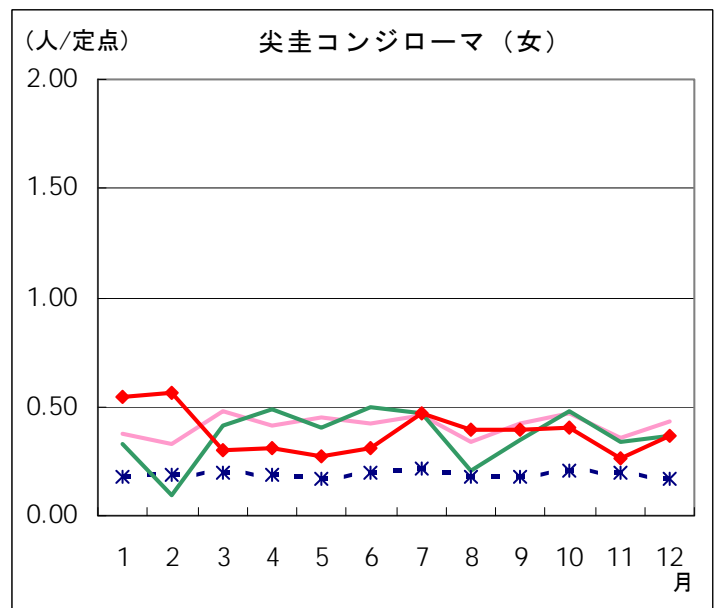
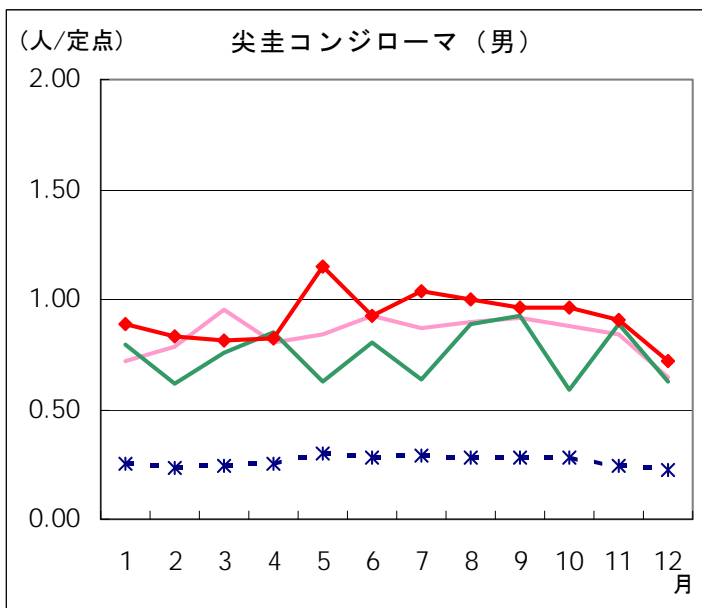
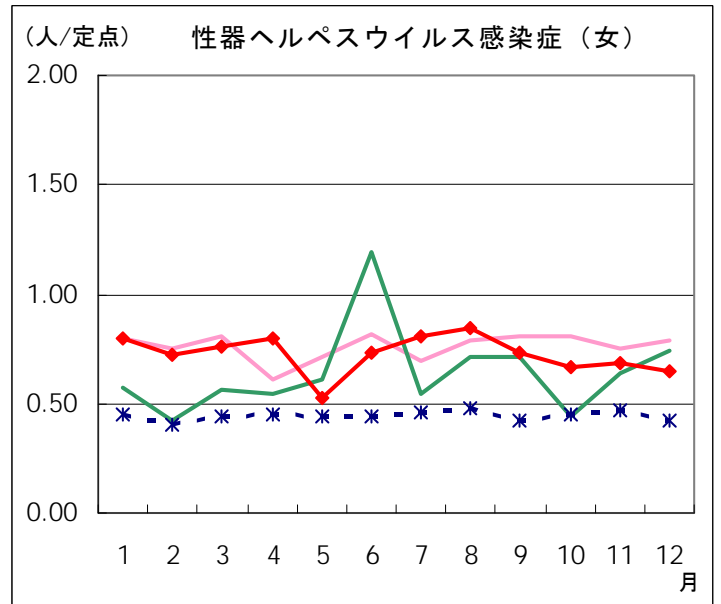
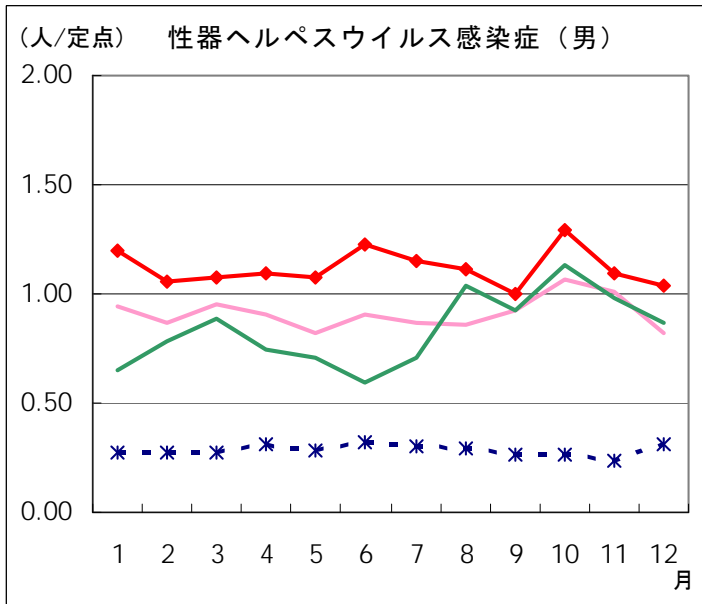
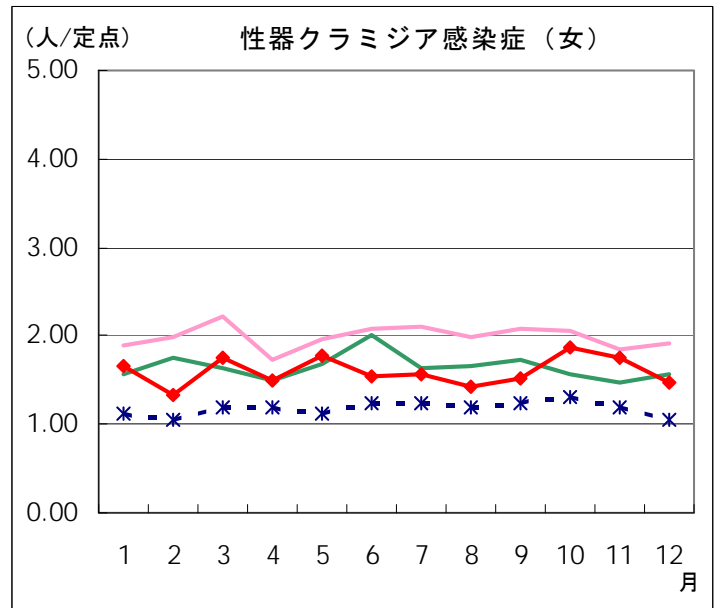
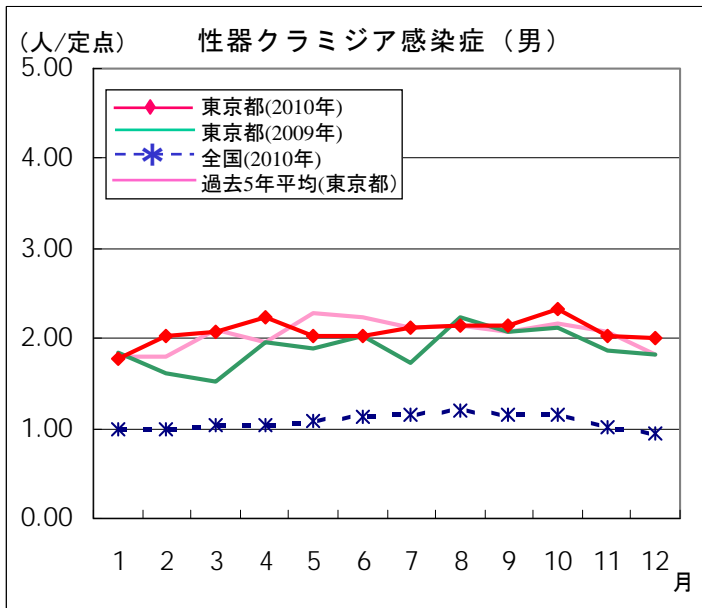
## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2010年12月

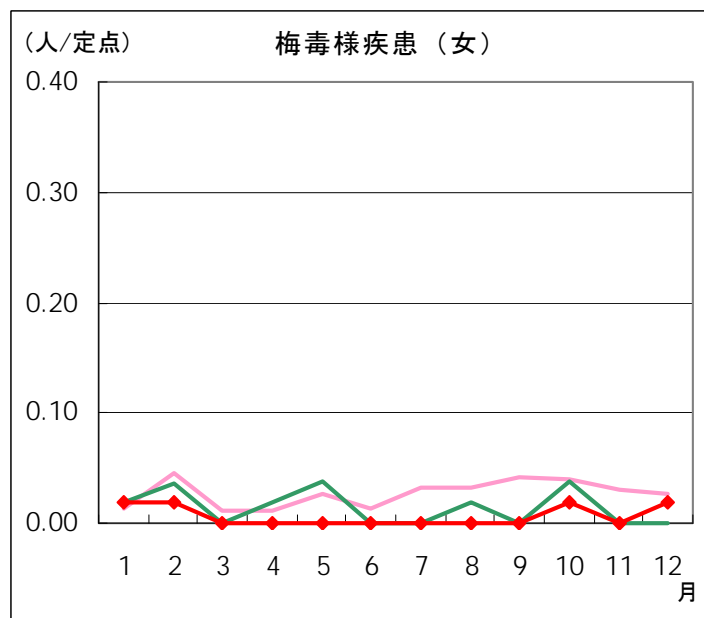
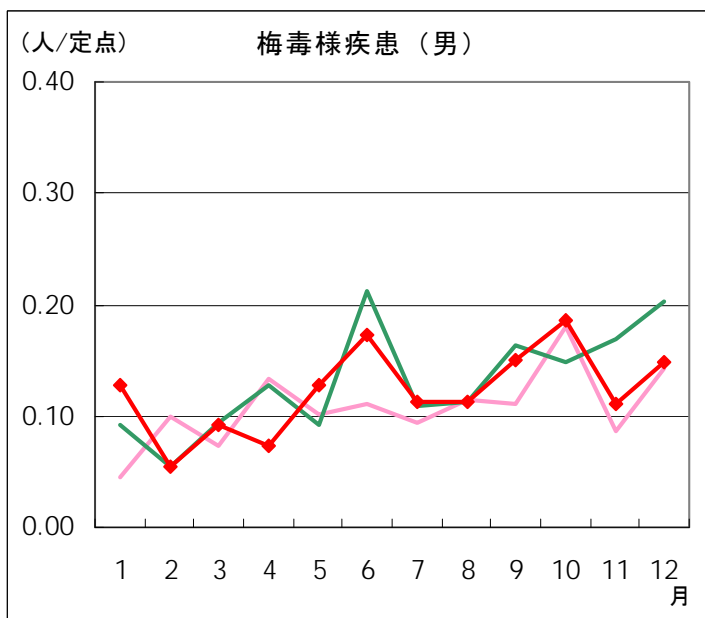
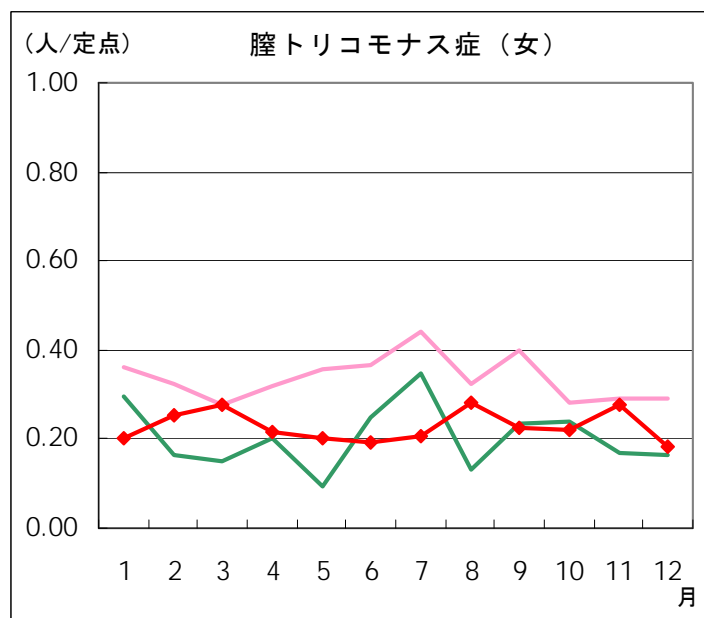
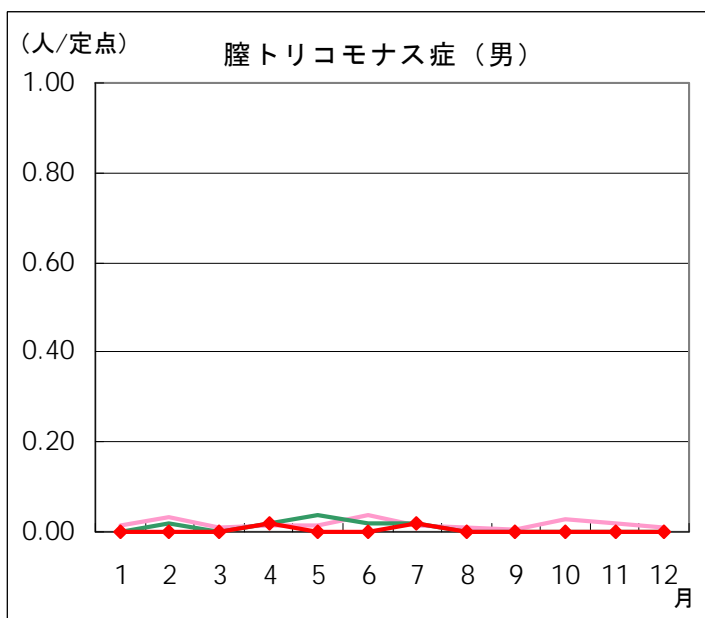
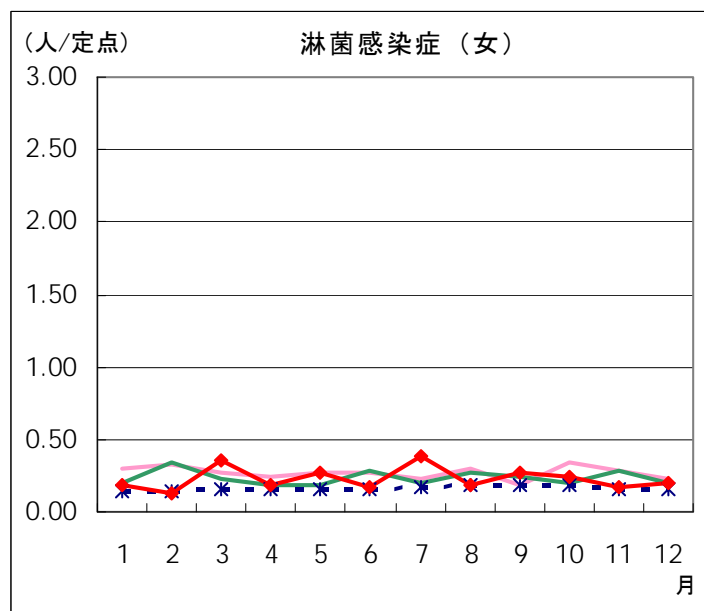
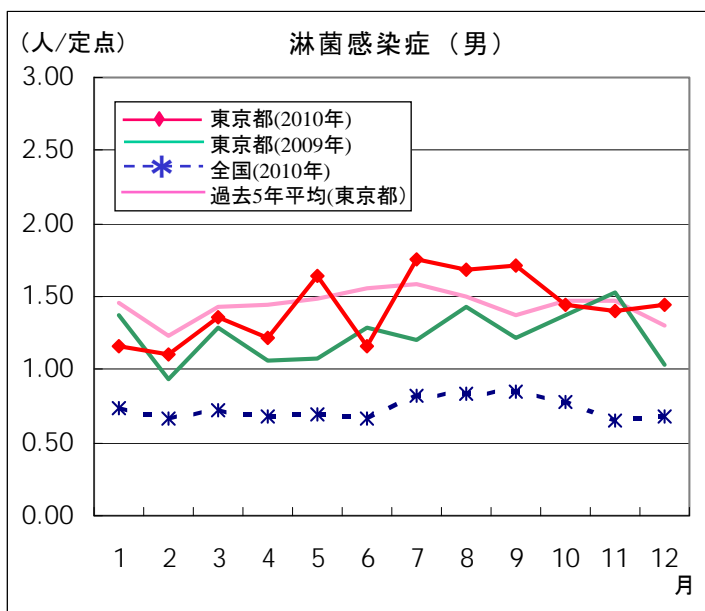
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	3	4	1	5		
中央区	3	11	3	1	2		
みなと	2	12	23	12	5		
新宿区	7	27	12	11	26		7
文京	1	6			2		
台東	2						
墨田区	2	1	1				
江東区	2	11	7		15		
品川区	1				1		1
大田区	2	1			2		
渋谷区	4	3	1		1		
中野区	2	3	1	2	4		
杉並	2	4			5		
池袋	3	14	3	9	6		
北区	1	1		2			
荒川区	1						
板橋区	2	1	1		2		
足立	2	4					
江戸川	2	4			2		
八王子市	4						
町田	1	2					
多摩立川	2						
多摩府中	3			1			
多摩小平	1						
合 計	54	108	56	39	78		8
定点当たり		2.00	1.04	0.72	1.44		0.15

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	1					
中央区	3	1					
みなと	2	9	6	1			
新宿区	7	4	12	12	3	1	
文京	1						
台東	2	1	2			1	
墨田区	2		3		1		
江東区	2	2	1				
品川区	1						
大田区	2	10		1			
渋谷区	4	3	3	2	1	3	1
中野区	2	1		1			
杉並	2	2					
池袋	3	11	2	3	1	1	
北区	1						
荒川区	1	2	1				
板橋区	2						
足立	2						
江戸川	2	9	1		2	1	
八王子市	4	8	2				
町田	1					2	
多摩立川	2	16	2		3	1	
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	54	80	35	20	11	10	1
定点当たり		1.48	0.65	0.37	0.20	0.19	0.02

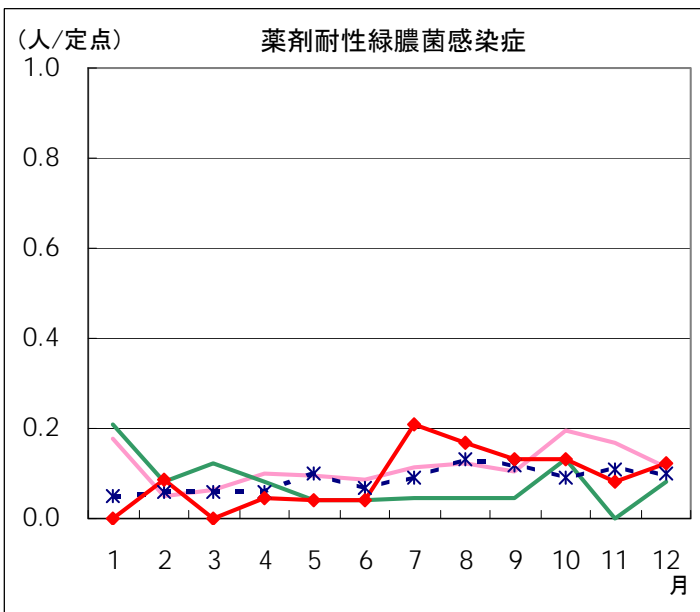
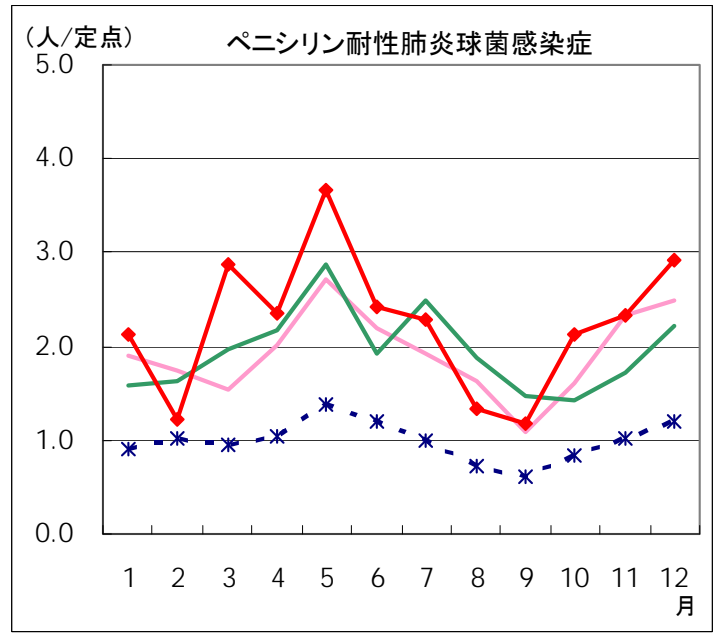
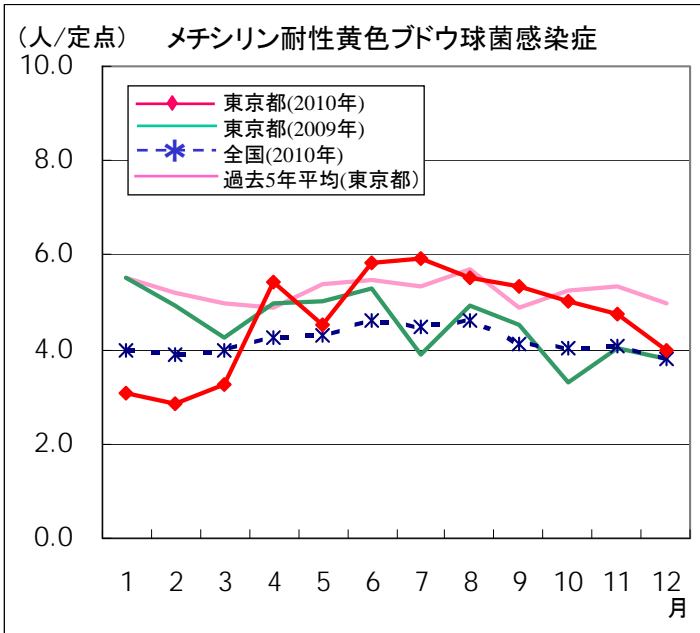
# 月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2010年12月現在

## ◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点





## 月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

\*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
12/2	陰茎ヘルペス	33	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	遺伝子
12/4	尖圭コンジローマ疑い	34	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス 6型	
12/7	尿道炎	45	男	尿	クラミジア	
12/7	尿道炎	21	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
12/8	尿道炎	29	記載なし	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
12/8	尿道炎	31	男	尿	淋菌	遺伝子
12/9	尖圭コンジローマ疑い	27	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型	
12/14	尿道炎	29	男	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
12/14	淋菌性尿道炎	40	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
12/14	淋菌性尿道炎	記載なし	記載なし	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
12/15	尿道炎	26	男	尿	淋菌	
12/16	尿道炎	35	男	尿	淋菌	
12/16	淋菌性尿道炎	38	男	尿	淋菌	
12/16	尖圭コンジローマ疑い	58	男	コンジローマ部位擦過物	ヒトパピローマウイルス 39型	遺伝子
12/17	クラミジア膣炎	20	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
12/20	淋菌性尿道炎	29	男	尿	淋菌	
12/20	膣炎	20	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 58型	
12/20	外陰部ヘルペス疑い	29	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 2型	
12/21	尿道炎	41	男	尿	クラミジア	

## <感染症豆知識>

### ハンタウイルス肺症候群 (Hantavirus Pulmonary syndrome, HPS)

発熱、重篤な呼吸不全およびショックを呈する急性感染症である。1993年に北米でアウトブレイクを起こし、新たなハンタウイルスであるシンノンブルウイルスによる疾患であることが判明した。1995年以降は中南米からもHPSの報告が次々となされている。感染症法では4類感染症に定められている。ネズミ（ディアマウスなど）の唾液、尿、便の吸入あるいは咬傷によって感染が生じる。ヒトヒト感染は通常みられない。感染管理上は、標準予防策を順守し、一般的なウイルスに対する消毒を行う。潜伏期間は2週間である。

自覚症状として発熱、全身筋肉痛、悪寒、次いで頭痛、嘔気・嘔吐がみられる。4～5日経過後に咳嗽および呼吸困難がみられ、急速に呼吸不全が進行する。呼吸不全は軽度の低酸素血症から急性呼吸促迫症候群に似た肺水腫まで幅広い。診断はHPSウイルスに対するIgMおよびIgG抗体測定や病理組織学的にウイルス抗原を検出することで行われる。臨床検査では、ヘマトクリット増加、白血球増加、異型リンパ球出現、APTT延長、AST、LDHの増加が認められる。CRTNNの軽度増加や蛋白尿が見られることもある。

特異的治療はないが、十分な経過観察を行い適切な酸素投与を行うことが大切である。重篤な呼吸不全に対しては、人工呼吸器管理を行う。また循環動態に注意を払い、ショック症状に対しては昇圧剤の使用および慎重な補液を行う。過剰な輸液は避けなければならない。死亡率は約50%とされ、発症後平均8日で死亡する。

南北アメリカ大陸でのネズミとの接触既往がHPS診断に重要である。

(文責 東京都立駒込病院感染症科部長 味澤篤)